











### (3)【施策展開6】 美しい農村の維持・活用

#### ウ 安全で快適な農村環境の確保と防災・減災

##### 【めざす平成 29 年の姿】

- ◇豪雨や地震に対し、ため池や農業用水路の安全性が高まり、また、ソフト対策による災害時の被害軽減を図る取組が進むなど、農村地域の安全が確保されています。
- ◇農村生活環境の整備が進み、農作業の効率化が図られるとともに、農村地域の日常生活の利便性が向上しています。また、農村生活環境の整備に伴い、集落機能を維持するための定住促進や他地域との交流・連携による地域経済の活性化といった施策が各地で進められています。
- ◇ため池や農業用水路は、生態系や景観に配慮して整備されるとともに、水に親しめる施設の整備も進み、人々に安らぎを与える水辺空間となり、地域住民等により適切な管理が行われています。

#### <施策の取組状況>

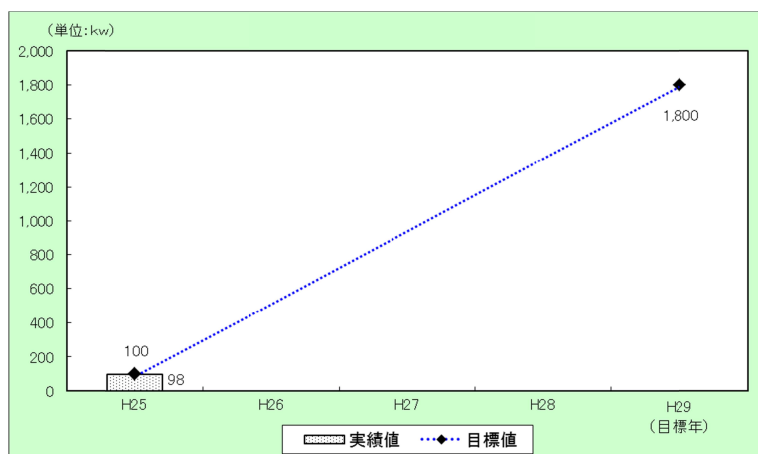
##### ○ 総合的な防災対策の推進

- 豪雨や地震による決壊等の被害を未然に防止し、農村地域の安全を確保するため、老朽化したため池等の補強や改修を進めました。
- 農地や農業集落、道路、鉄道等の公共施設を災害から守るため、地すべり防止施設の設置や補修を進めました。
- 地震に起因する施設の損傷等による被害を防止するため、地震防災対策強化地域の重要な農業水利施設の耐震改修を進めました。
- 降雨による農地等の湛水を防止するため、排水機場の補修や更新を進めました。
- 災害発生時の人的被害を軽減するため、ため池の被害に関するハザードマップの作成を支援しました。

##### [平成 25 年度の主な取組]

- ・ 県営ため池等整備事業実施地区数：37 地区
- ・ 地すべり対策事業実施地区数：15 地区
- ・ 湛水防除事業実施地区数：1 地区
- ・ ため池に関するハザードマップの作成箇所数：4 か所

#### ■達成指標項目 29：農地等の安全確保面積 (H25～H29) (農地整備課調べ)



老朽化したため池や地すべり防止施設などの整備を計画的に進めることにより、豪雨や地震による被害が未然に防止され、農地等の安全が確保された。



【堤体の改修により安全性が向上したため池】  
(県営ため池等整備事業 駒ヶ根地区)



【法枠工等の整備により地すべりを未然に防止】  
(地すべり対策事業 長岩地区)

## ○ ため池や地すべり防止施設等の維持管理の徹底

- ▶ 豪雨や地震に対する安全性を把握するため、決壊等による被害が甚大となる恐れがあるため池の現況調査、危険度調査、耐震性点検を進めました。
- ▶ 地すべり被害の軽減や再発防止のため、地すべり防止施設の適切な管理を実施しました。
- ▶ 農業水利施設の日常管理に携わる土地改良区等施設管理者の技術力向上や土地改良施設に係る災害・事故等のリスク管理技術を習得するための指導事業（基幹水利施設保安全管理対策）を実施しました。

### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・ため池の耐震性点検及び危険度調査か所数：耐震性点検 56 か所、危険度調査 1,195 か所
- ・指導事業（基幹水利施設保安全管理対策）：指導を受けた人数 212 人、技術講習受講者 15 人〔再掲〕

## ○ 集落を維持するための地域特性に応じた生活環境整備の推進

- ▶ 農産物輸送の効率化と地域間交流を支える基幹的農道の整備を進めました。
- ▶ 農村地域の居住環境を改善し、集落機能を維持するため、農業生産基盤の整備や農業集落内の道路整備等の生活環境整備を進めました。

### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・県営農道整備事業実施地区数：12 地区〔再掲〕
- ・県営中山間総合整備事業実施地区数：7 地区

## ○ 美しい農村景観や生態系保全への配慮

- ▶ 農業生産基盤や生活環境の整備は、生態系や景観等の環境保全に配慮し、必要に応じて石や木材等の地域の自然素材を利用した工法を採用しました。

### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・生態系や景観に配慮した水路等の延長：1 km

## ＜今後の展開方向＞

- ▶ 日常点検等により、ため池の現状を把握するとともに、豪雨や地震による決壊等の被害を未然に防止するため、老朽化したため池等の補強や改修を計画的に進めます。
- ▶ 地すべり防止施設の適切な管理を実施するとともに、農地や農業集落、道路、鉄道等の公共施設を災害から守るため、地すべり対策を進めます。
- ▶ 農業生産基盤の整備と農業集落内の道路整備等の生活環境の整備を総合的に進めます。
- ▶ 農業生産基盤や生活環境の整備は、生態系や景観等の環境保全に配慮して進めます。

